

7/26 (金) 高円宮賜杯第44回全日本学童軟式野球大会出場
荃崎ファイターズ佐々木選手 表敬訪問



小林町長 佐々木瑠星選手

軟式野球チームの荃崎ファイターズに所属する佐々木瑠星選手（葵小5年）が、全国大会出場への報告に小林町長を表敬訪問しました。

全国大会に向けて、佐々木選手が「優勝目指してがんばりたい。」と意気込みを語り、小林町長からは「勝利を目指して頑張ってください。」と激励の言葉が送られました。

8月15日（土）から東京都で開催された高円宮賜杯第44回全日本学童軟式野球大会では、最後まで諦めずに全力で戦う姿を見せてくれました。

8/9 (金) 第33回夏の全国小学生ドッジボール選手権大会出場
茨城 KOSMO 表敬訪問



町内のドッジボールチーム「茨城KOSMO」が、全国大会出場への報告に、矢口教育長を表敬訪問しました。

全国大会に向けての意気込みを選手一人一人が語り、矢口教育長からは「悔いのないよう思い切りプレーしてほしい。」と、激励の言葉が送られました。

8月18日（日）にアドストリアみとで開催された第33回夏の全国小学生ドッジボール選手権大会では、予選リーグを1位で通過し、決勝トーナメントに進出するなど、気迫あふれるプレーを見せてくれました。

7/25 (木) 水戸ホーリーホック茨城町PR大使
サッカーボール贈呈式



水戸ホーリーホック茨城町PR大使によるサッカーボール贈呈式が、HUMAN SOLUTION TOWN ふれあいパーク（上石崎）で行われました。

この贈呈は、サッカーを通じて社会貢献していくプロジェクトに賛同している飯泉涼矢選手（写真後列右）が、自身がフル出場した試合で1勝するごとに、町内の児童福祉施設にサッカーボールを1球プレゼントする取り組みです。

贈呈式では、石崎学園、洵沼学園、ひめまきっずの3施設に1球ずつ寄贈されました。

飯泉選手は、子どもたちとの交流を通して「もっとたくさんのサッカーボールをプレゼントできるように頑張りたい。」との思いを語ってくれました。

7/29 (月) 第106回全国高等学校野球選手権大会出場
霞ヶ浦高校野球部 雲井選手 表敬訪問



矢口教育長 雲井脩斗選手

霞ヶ浦高校野球部に所属する雲井脩斗選手（明光中出身）が、全国大会出場への報告に矢口教育長を表敬訪問しました。

「甲子園の地で、チーム一丸となって戦い抜きたい。」と語る雲井選手に向けて、矢口教育長からは「甲子園は誰もが行ける場所ではない。甲子園のグラウンドに立つ経験は、今後活かされる。ぜひ頑張ってきてほしい。」と、激励の言葉が送られました。

8月7日（水）から兵庫県の阪神甲子園球場で開催された第106回全国高等学校野球選手権大会では、強豪校を撃破し、チームの大会初勝利に貢献する素晴らしい活躍を見せてくれました。

県内初の快挙 全国中学校剣道大会 女子団体優勝
おめでとう！ 青葉中学校剣道部



8月18日、全国中学校剣道大会が新潟市で行われ、青葉中学校剣道部が女子団体の部で優勝を果たしました。県内の剣道部が、中学女子団体において全国優勝を勝ち取ったのは初の快挙です。

9月4日、青葉中剣道部は茨城町役場を表敬訪問し、小林宣夫町長に結果を報告しました。



種目	学年	氏名
剣道 女子団体 全国大会 優勝 関東大会 優勝	3年	橋本 華
		宇佐美 華凜
	2年	雨谷 星七
		時田 迦弥
1年	貝塚 朱里	
	雨谷 凜	
		佐久間 朱那

幼い頃から同じ道場で切磋琢磨してきた7人。「昔からずっと一緒に、何でも言い合えるチームメイト。監督、剣道部のメンバー、家族や応援してくれた皆さんと共に、全国の舞台上で戦った経験を自信にして、これからも頑張りたい。」と語りました。



大将戦に臨む宇佐美選手

橋本 華さん (3年)

昨年の全国大会では副将を務め、準決勝敗退の三位だった。今年は先鋒をやらせてほしいと自分から監督に願い出た。自分がしっかり流れを作るしかないという気持ちで、力を出し切ることができた。

宇佐美 華凜さん (3年)

最後の大将戦は、弱気で中途半端な気持ちが一番駄目だと思い、覚悟を決めて挑んだ。まだ実感がわかないけれど、全国優勝を果たせてとても嬉しい。

雨谷 星七さん (3年)

チームで優勝できて嬉しい気持ちもあるし、全国の舞台上では自分の剣道を出し切れなかったという思いもある。この悔しさをバネに、高校に進学してもずっと剣道を続けていきたい。

時田 迦弥さん (3年)

優勝したときは、ほっと安心した。全国大会では次鋒として試合に出場し、相手からメンを取ることができたので、チームの流れをいい方向に引っ張っていったのではと思う。

貝塚 朱里さん (2年)

全国優勝は、たくさんの人に支えてもらったからこそ。全員一丸で、「チーム青葉」として頑張った。特に、送り迎えやおいしいお弁当などで応援してくれた家族のおかげで力を出せた。

雨谷 凜さん (1年)

優勝が決まったときは実感がわかなかった。中堅として出場するときは、前の二人が勝ってきてくれる試合が多くて、自分もその勢いに乗って力を出し切ることができたと思う。

佐久間 朱那さん (1年)

全国大会では補員として、常に試合を意識しながら、チームの力になるように心を込めて応援した。普段の練習もこれまでどおり、本番の試合だと思って直向きに続けていきたい。



果敢に攻め込む橋本選手